

平成 28 年度 第 2 回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会 議事要旨

1 日 時 平成 28 年 8 月 1 日(月)14 時 00 分

2 場 所 本庁舎 9 階 会議室

3 出席者

- (1) 検討委員会委員 7 名
- (2) オブザーバー(北海道大学大学院工学研究院)3 名
- (3) 事務局 市民ホール建設準備室長ほか 4 名
- (4) 傍聴者 4 名

4 次 第

(1) 開会

(事務局)

前回の第 1 回検討委員会の後に、各ワーキンググループ会議を行なった。今日はその内容について各部会のリーダーに報告をしてもらい、議論をしていただきたいと思っている。

(委員長)

前回の会議の内容をもとに各ワーキンググループのリーダーに御報告いただき、この場で意見交換をしていきたい。意見交換は、報告の中で出てきた内容に関して検討委員の皆様が思うことや、今後ワーキンググループで是非このようなことを議論してほしいという提案、あるいは他のワーキンググループへの関係など、そういったことに時間を使って議論していきたい。

まず始めに議事要旨について、前回は基本構想の確認をした時に、建物あるいはホールをつくることをテーマにするのではなく、市民の方々の日常的な居場所づくりを公共施設としてしっかり考えていくことを挙げた。

もう 1 つは複合化することの意義として相乗効果や合理化があり、既存の市民会館、文化会館などを前提とした新しい建物ではなくて、1 度リセットしてゼロから考える視点を重視していこうということを基本構想の振り返りとして話をさせていただいた。そういった時にサードプレイスをメインテーマとしているが、自宅、職場あるいは学校、それにプラスアルファとなる居場所を目指していくことをキーワードとして挙げてきた。

これらの内容を踏まえて、前回のワーキンググループ会議では意見交換をしていた。早速ではあるが、各ワーキンググループのリーダーに議事録を参照しながら、盛り上がった議論や重要なポイントについて紹介していただきたい。それで

はまず活動部会から報告をお願いしたい。

(2)－1 各ワーキンググループからの活動報告

(2)－2 ワーキンググループへのフィードバック

(委員)

第1回活動部会の内容を議事要旨をもとに報告。

(委員長)

議事要旨の最初にある「文化・芸術に触れ合う入り口をどのように作るのか」は重要な議論であると思う。例えば私自身、日常的にクラシックを聞いているかと言えばそうではないし、ダンスをするかと言われれば踊ることもしていない。そういった中で、芸術や文化に触れ合うまでの段階として、環境が整っていることは大事なことである。特に好きなアーティストがいれば、それに関わるイベントに行こうと思うが、全く知らない世界だとそうはならない。決してハコモノとして施設を考えるという意味ではないが、何かの企画・イベントがあるから施設に行くというよりは、例えば「暑い日に市民ホールに行けば、涼むことができる。」というようにどのような形でもいいので、とりあえず足を運びたくなることが大切である。そこで、ポスターが貼ってあったり、ちょっとしたイベントを開催しているとかオープンなスペースで音楽が流れているなど、施設を文化や芸術の段階的な入り口として整備していくことが非常に大事だと思う。

(委員)

「人口17万人の都市に適正な施設の規模とは」という内容に関して、現市民会館の大ホールの問題は稼働率や利用者数である。一方で、市民ホールでそれらの問題を解決していくのは、「マネジメント」に尽きるのではないかと思う。人の流れをどのようにつくっていくのかに加えて、複合施設としてのメリットをどういうところに持ってくるのかということを考えながら、大ホールで行われているイベントを様々な人に見てもらえる機会をどのように作っていくかが重要になる。

また、17万人という人口規模に対して1,600席のホールは大きいという考え方もあるのかもしれないが、市のランドマーク的な施設として市民ホールに必要な座席数を具体的な数字として出していく必要がある。

最後に、苫小牧信用金庫の無料で使用できるホールは利用の仕方として非常にいいと思うが、市民会館や文化会館のホールとは位置付けが少し違うものである。必ずしもお金がかからず使いやすければいいというものでもない。有料でも一般市民の方々がプロに近いような催しができるホールをつくっていく必要があると思う。

(委員長)

「マネジメント」と「ホールの規模や座席数」の2つの話が出てきたかと思う。マネジメントに関して議事録にもいくつか出てきたが、もう少し補足や紹介していただけるような話題はあるだろうか。例えば、マネジメントと一言と言っても、大きくは「どのような組織をつくるのか。」と「どういう方向性を目指すのか。」がある。組織は非常にシンプルに言うと、市の直営で運営する方法や、指定管理者としてどこか民間企業に運営を任せるなどといった組織論の話がある。

もう1つは、建物の使い方や催しの考え方、イベントの組み方の方向性をどのように考えるかについてもマネジメントとして大事なことである。別の言葉に置き換えると「戦略」という言葉になると思うが、決して17万人の都市だから人口の規模に見合ったかたちで小さい施設にしなければいけないという話ではない。例えば、戦略的に考えた場合に札幌市より大きい施設が全くあり得ないわけではない。

このようにマネジメントと一言と言っても、そこから先を考えるとときに様々なことを考える必要があり、会議の中で「マネジメント」の話題が出たときにどのような話が出てきたのか、紹介していただけるとありがたい。

(委員)

例えば、障がい者の方と音楽の組み合わせなど今までにあまりやったことのない企画を考える必要があるといった意見が出ていた。また、入場料がかかる演奏会を毎回やるのではなく、たまに無料で聴くことのできるコンサートを開催するなど気軽に施設に入れるきっかけをつくることも大切であるといった意見や展示と音楽が一緒になる企画をつくるなど新しい試みを企画することがマネジメントには重要だという話が出ていた。

(委員長)

少し荒っぽい言い方になるが、「どんどん集客をして利益を求めるようなマネジメント」ではなく、「まずは今まで芸術などに触れるチャンスに恵まれなかった方に積極的に芸術や活動に関わっていただくような機会を創出するマネジメント」の話が出ていたように思う。

(委員)

現在、札幌市では札幌シティジャズが行われており、飲食をしながらジャズを聴くことができる。また以前に、グランドホテルでもジャズが行われており、バーカウンターで雰囲気も良い最適の場所であった。しかし、公共施設の多目的ホールでは、演奏会以外では椅子を片付けると何もない平土間のスペースになることが多い。このように音楽は雰囲気も大事であり、多目的ホールは椅子がなくなり単なる平土間とするのではなく、普段は飲食スペースとして活用するのも有効な手段ではない

かと思う。

また、無料でコンサートを開催してはどうかという話が出ていたが、演奏する側がお金を取らずにイベントが成り立つのかどうかという問題もある。演奏会にも「一般の方々がお金を払ってでも聴きたい音楽」や「演奏する側が発表会として自分の歌を聴いて欲しい音楽」など様々なタイプがあり、そのバランスを取っていくことが施設運営のマネジメントにつながると思う。

話は変わるが、仕事で代官山や函館市の蔦谷書店に行ったことがある。函館では小さな子どもたちが遊ぶスペースがあったり、無料で音楽を聴いたり、大きなテーブルでコーヒーを飲みながら仕事や勉強をしている方々が多くいた。そういうことは、複合的につくることによって面白い取組となる。しかし、市役所が一般競争入札をすると安い食堂などを入札して公共施設の一部としてしまうことが多い。人が集まる商業施設を選定するなど早い段階でマネジメントをすることによって、建物のつくり方や構成が変わってくると思う。

(委員長)

今後、検討していただくときにどのような活動をするのかさらに議論の具体性を上げていってほしい。例えば、「ホールの座席数が1,500席と800席を収容できるものを2つ作り、それを多目的に使えるようにするのか。」、あるいは「大規模のホールを1つ作り、中規模や小規模の諸室を多くつくって個性的な活動に対応していくのか。」などを考えるために何をしていくべきなのかをまず決めなくてはならない。

活動部会はバリエーションも豊富で大変だとは思いますが、他の事例を見ながらどのような活動をしていくのか、苫小牧市の中での活動の可能性やニーズなど、具体性をもう少し高めていくことが必要だと思う。その時にただ単に活動の種類だけではなくて、練習ベースのものからプロの発表会まで活動のグレードを意識し、例えばお金を取るような活動や日常的な練習を縦軸に取り、活動の規模や種類を横軸とした場合に色々な活動が分布することになると思う。その時にこのあたりのことは東京に任せようとか、近所の集会所に任せようとか、今回の複合施設として押さえていこうということを把握できる事例の具体性を挙げていくスタディをしていただけると今後につながっていくのではないかという印象を持った。その他にいかがだろうか。

(委員)

市民ホールは市民会館の建替えではなくて、複合施設ということで文化・芸術の他に公共のいくつかの機能を併せ持った大きな施設である。そうなる则様々な人が集まってきて、普段コンサートをやっていなくてもそこに人が集まってくる施設の方が、色々なイベントを開催するにしても稼働率が上がってくるのではないかと思

う。いずれにせよ、大きなコンサートホールを設けてそこで何か工夫するというものでは成り立っていかない。どういった大きさのものにしていくかということについては議論をしていかなければいけない。

無料や有料といった議論が出ているが、無料のものも必要だとは思いますが、やはり基本的には有料のものでなければ長続きしないのではないかと。無料であれば図書館の分室や博物館の特別展示室などもあっていいのではないかと。その他に飲食ブースやフードコートの発想は非常に良いと思う。ただ、芝生入れないようにするなど禁止事項を多くすることはあまり良くないことだとは思いますが、単純に公共の場を守るという意味でルールは必要だと思う。いずれにしても公共の場でどのようにして許容していくのかという問題もあるが、芝生で食事ができるようにするのなら、それはそれで問題ないと思う。また、それは苫小牧市民のモラルの問題にも発展してくる内容になってくる。

(委員長)

活動部会は市民の方々が自ら活動する場所として複合施設のイメージを持てば良いかと思う。その時にどのような活動をするのかというバリエーションを具体的に考えていただくということと、加えてここでの活動は何かのサークルに所属して練習や発表する以外の活動も、活動部会で積極的に考えていただきたいと考えている。後者の方は特に何でもできるような場所の使い方のルールの話も大事になってくる。ひとまず活動部会の報告は一度締めさせてもらいたいと思う。

(委員)

第1回鑑賞部会の内容を議事要旨をもとに報告。

(委員長)

もう少し話を聞きたいのだが、まず議事録の冒頭に出てくる「苫小牧独自のインパクトある施設にしたい」というのは、具体的にどのような話題が挙がったのだろうか。

(委員)

インパクトある施設にするための具体的なアイデアはまだ出てきていないが、苫小牧市に特徴あるインパクトなものがないという意見が多数出てきた。

(委員長)

個性を出す方法はいくつか考えられると思う。例えば、日本にたった一つしかない設備を備えていることも個性である。また、市民ホールに行けば様々な芸術や文化のようなジャンルが同時に楽しめるプログラムの豊かさであったり、あるいは居

場所として公共施設でも、商業施設でもないような居心地の良い場所であったり、インパクトや個性として挙げられる。どれもが重要であると思うが、インパクトに関してどういうアイデアがあるのか、鑑賞部会でまだ具体的なインパクトに関する内容は決めなくてもいいが今後、議論していただく必要がある。例えば、私は演劇などに関して素人ではあるが、公演の直前に行って観た後はすぐに掃けるというイメージがある。しかし、午後6時から午後8時まで公演があった場合、2～3時間前に気持ちを盛り上げられる場所があったり、公演が終わったあとに午後10時からいまで同じ趣味の方々と話ができたりといった、余韻に浸れるスペースが残されているなどの体験ができるといい。そういった過ごし方をトータルでできるような考え方も非常に大切である。東京の中心部だと掃けたあとでも他に行くところはたくさんあるのでそういったこともできる。市民ホールなら2～3時間前に来ても全く飽きないし、公演が終わったあとでも余韻に浸れるような居場所のイメージを期待したい。

(委員)

苫小牧市の現状から考えて、何かをできない・やりにくくしているのは、市民会館や文化会館が分断されているからである。新しい複合施設ではロビー部分を充実させ、常に人が入りやすいようにするために、どのような人の流れをつくるのか、さらにどのようにホールや会議室などをつくっていくのかである。ホール以外のスペースをどういう位置付けにするのか、イメージとしては総合的な生涯学習センターのようなものであればいいと思う。ただ、そのあたりは面積やコストによって変わってくるのだが、ホール以外のスペースの充実が1番になってくるのではないかなと思う。

また、札幌市は文化芸術財団があって、その事業をするための専門の人々が多くいて、その人たちが年間の事業計画を立ててマネジメントを行っている。規模は札幌市ほどではなくても、そういった部門もつくっていかなくてはならない。

(委員)

サードプレイスとして市民にとって施設を使いやすくするとか音楽を楽しめるというニュアンスの話が出ているが、芸術をやっている身としては、舞台などしっかりとしなくていけないところはしっかりしなくてはいけないと思っている。市民の方々や子どもたちの芸術の知識や音楽に対する学びの場として質を下げるよりは、しっかりしたものを体験しやすくすると人も育っていくし、居心地も良いので両方の面で良いのではないかなと思う。

(委員長)

御指摘のとおりだと思う。芸術の質が落ちるようなことがあれば、芸術を体験し

たことにはならないし、ある一定の芸術が成り立つための環境が必要である。そういった芸術をどのように提供するのかというやり方に、ソフト面やハード面の工夫が求められる。演劇などではS席、A席、B席、C席などがあり、席のグレードが良くなるにつれて鑑賞しやすく、音が聴きやすい。全くの例え話になるが、C席はホールの中には入れないが、安価な値段でどこかから演劇の様子が見えて音が流れてくるというような仕組みをつくることで、「次回はB席を買ってみようかな。」というようにきっかけづくりのプログラムになるかもしれない。今まではプロの方が来て、それなりにお金が払える方で割と間口が狭かった傾向にあった。今回の市民ホールで芸術の質を下げる必要はなく、ソフト面でもハード面でも間口を広げる工夫をどうしたらいいのかを考えていく必要がある。そのあたりの考え方は注意していかなければいけないと思う。

(委員)

札幌市が近いから良い音楽や演劇を札幌市に全て任せるというのではなく、苫小牧市でも良い音楽や演劇が観れるというイメージを大切にしていきたい。

(委員)

札幌市にはKitaraがあるが、以前にKitaraの改修があったときには吹奏楽などで苫小牧市民会館の大ホールに来ていた。演奏する側からすると苫小牧市民会館は聴きやすいという話を聞いたことがある。そういう意味ではある程度、今の大ホールのレベルは引き継いでいけるのではないかと思う。

また、バレエなどは専門的な演出ジャンルなので、一般的には非常にお金がかかるものである。苫小牧市はもともと独自で技術スタッフがいたものを引き継いでいるので、備品料金だけでできてしまう。札幌市でやっているものと同じような舞台がバレエやジャズダンスにしてもできるのが現状で、そこは何とか市民ホールでも継続して同じレベルでやっていけるようにしていきたい。

(委員長)

注意しないといけないのは、「上下関係」ではなくて「役割分担」である。札幌市がより上位にあって、苫小牧市がその次という話ではなくて、ある部分は札幌市に任せて、ある部分は苫小牧市が担うということを意識することが重要である。

(委員)

鑑賞部会は、演奏などをする側の立場でこういう設備や楽屋がほしいという意見を出していくべきではないかと思う。表現としてどういったものが欲しいのかを議論していく必要があり、札幌市と比較する必要もない。演奏などをする側の立場、観る側の立場などを明確にすると議論がわかりやすくなるのではないかと思う。

(委員長)

先ほど活動部会で戦略が必要だという話と組織論について話をさせていただいたが、組織については実行力だと思っている。戦略については方向性を見定めて、コントロールしていくような総合館長のような人がいないとぶれてしまう可能性がある。方向性を出しながら、それをどう実行していくのか、実現していくのがいいのかという場合に、組織として直営が良いのか、民間がいいのか、NPOがいいのか、それらを組み合わせるがいいのかという話になってくる。これは鑑賞部会で全て議論するトピックではないかもしれないが、例えば鑑賞部会で注目している他の施設であるとか、団体の活動がどのような実行力を持っているかということや例えばある施設の凄腕の総合館長がいるだとかという話もいただけると今後の勉強となる。私の経験だと多くの場合は、施設の方向性を持てる人がいるかどうかでその施設の活き方が全く変わってくる。そのあたりは鑑賞部会でもし情報があれば御提供いただきたいと思います。

(委員)

第1回展示・窓口部会の内容を議事要旨をもとに報告。

(委員長)

展示・窓口部会は議事録にも記載されているように総合力が求められる部会であり、芸術や文化活動など施設利用の入口を作る重要な部会での検討になる。これから様々なことを議論していただきたいが、やはり他の部会と同じように具体的なアイデアを出していただいた方が良いと思う。どのような展示をするのか、また窓口と言っても全ての相談を受けるわけにはいかないので、どこまでのことを相談として受けたり対応したりするのかという議論も必要になってくる。昨年度の検討委員会でもコンシェルジュというキーワードが出てきたが、コンシェルジュがいると市民の方々が行きやすいし、安心できるという話だが、全ての相談を受ける何でも屋というわけにはいかないので、どの範囲での窓口対応とするかが求められる。

展示も小中学生の書道展から様々な展示があると思う。例えば、掲示板に市民が無許可で貼れるようなものや大きな黒板があって自由に書き込める場所があることも展示になると思う。これらは思い付きではあるが、どのような展示・窓口がいいのか具体的なアイデアを出していただきながら、議論を進めていただく方が良いと思う。今回出てきた重要なポイントとしては、その展示や窓口を利用する、あるいはそれがあることで喜んでもらえる人物像も一緒にイメージを持っておくと思う。例えば、「子育て」というキーワードがあったが、仕事と両立ということで想定される人のバリエーションを出していくとイメージしやすい。子育て中の方々に幼稚園や学校にまだ子どもが行っていない方々は、昼間は複合施設に行っ

てみようということで、どんな場所と展示があると週3回でも来たくなるようなものになるのかであるとか、例えば市の中心部に建設された時に市の職員の方々が仕事を終えた後にどのような環境だと仕事帰りに寄りやすいか、中高生が遊んだりするときなど、人のイメージを持っておいた方が良い。また、先ほど活動部会でも少し出てきていたが、障がいを持った方ということで目の不自由な方や車いすの方が週3回でも市民ホールに来たくなるようなものになるためにはどうしたらよいかということを見ると、もっとアイデアが深まっていくのではないかと感じた。

(委員)

展示・窓口部会では活動部会でも出てきたように練習する場所の問題があると思う。苫小牧市では市で持っている既存の施設が多くあるわけで、どこかのコミュニティセンターに行かないとやりたい活動ができないというようなことが起きている。また、その施設専属の団体になってしまっていて、あまり活動はしていないのだが、年度当初にある部屋をまとめて予約をできてしまっているケースもあるかもしれない。

市民ホールでは窓口に行くと市の施設の利用状況がネットワークで一瞬にしてわかるようなシステムにすることで、どこでもいいから練習をしたいという方々を他の施設に誘導するなど分散させるようなことができれば良い。他にもある施設で2回練習をすると市民ホールで1回練習できるというような施設間でのつながりを持つと非常に良いのではないかと思う。

(委員長)

窓口はある一定の範囲で対応できる職員やスタッフを配置するという考え方もあると思うが、全国の施設で見られるのがボランティア、いわゆる苫小牧マイスターのような人が常時2~3人いて、その人に知りたい企画や練習する場所の案内など答えていただけるといようなこともアイデアとしてあると思う。また、もしかするとそういったボランティアスタッフになりたいという人も出てくるかもしれない。

先週、ニュージーランドのクライストチャーチに行ってきたのだが、ある教会では常に2、3人のボランティアスタッフがいて、その方々が観光客に教会や建物のことを説明したりしていた。「なぜこういった活動をしているのか。」と御年配のボランティアスタッフに伺うと「することがないから。」ということで、自分が活躍でき貢献できる場所があることが良いと言っていた。若い方では中国からの留学生が様々な人々とコミュニケーションが取れるし、勉強にもなるからということでボランティアに参加しており、活動の機会として機能していると感じた。

サードプレイスの話で、ファーストプレイスは寝食をするところ、セカンドプレイスは社会的な活躍の場、サードプレイスが余暇にあたるのだが、リタイヤされる

方々はセカンドプレイスが無くなっていく。セカンドプレイスとして社会的な活躍の場、今回では複合施設の窓口や活動に参加・協力していただける方を積極的に検討していくと興味深い話になるのではないかと思います。

(委員)

昨年度の検討委員会でも発言したように苫小牧市には FM コミュニティがない。サテライトスタジオのような地域コミュニティがあることによって、市内で情報発信したい人や活動をアナウンスしたい人が出てくると思う。現在の苫小牧市の FM は防災情報しかなくて、それ以外にも音楽が流れていたり、苫小牧の情報を流したりすることができるのではないかと思います。

子どもたちが母親と市民ホールに遊びに来たときに、例えば先週やっていたホールの演奏会の様子を流してみたりすると、次の演奏会に来てもらえる機会につながるかもしれない。

(委員長)

従来 of 古典的な展示をイメージすると、書道展などを想定するが、もう少し日常的に情報に接する機会を鑑賞や活動とリンクするなどして、御指摘のとおり機会を逃したのだけれど、後日映像が見られるというのは非常に良い考えだと思うし、具体的にイメージしていくと面白いかもしれない。

(委員)

映像に予告編なども付けてバレエの発表会が来週あることを告知すると、さらにつながりが持てるかもしれない。

(委員長)

例えば、今流行っているポケモン GO などは場所と電子的な情報がリンクしているところに可能性があると思う。例えば、市民ホールに来てチェックインをすると 200 円割引のクーポンがもらえる、市民ホールの無料 Wi-Fi 用のトップページに広告用の映像を流してみるなど来ることの動機付けやアドバンテージを仕掛けられるような議論にしていくと面白い。

また、情報環境が進んでいる一方で、実はローカルな情報に不足している側面があると思う。一昔前は広域の情報が全くなくて近所の情報が多かったが、最近スマートフォンの情報が増えた一方で、ローカルな情報が希薄になっている気がする。先ほどのコミュニティ FM の話もそうなのだが、この場所に来ると苫小牧市のことがわかるローカルインフォメーションを積極的に考えていくということも面白いのではないかと思います。

(委員)

サテライトのようなものがあると様々な情報がメールなどで集まってくるので、情報基地になってくるのではないかと思う。

(委員)

コミュニティ FM の話は以前から出ていた話題であるが、採算性が合わないなどを理由に消えていた。現在、苫小牧駒澤大学の学生で局を作りたいという声を聞いたことがある。

展示・窓口部会の話題に戻るが、窓口は1人でコンシェルジュをやるわけにはいかないなので、様々な公共施設のサテライトがある方が良いのかと思う。展示でいうと、情報が集まることが大事だと思うが、アイビープラザや市民活動センターにも展示スペースがあるので、市民ホールでコンシェルジュに聞くとそれらの情報がわかるような共通の情報を組み立てる必要がある。

(委員)

現在の苫小牧市の指定管理者で、別の会社がそれぞれの施設を運営している以上なかなかその中のネットワークを構築することが難しい。今後は市民ホールが中心となって同職種の中の人たちでのネットワークを配信していこうという流れをつくっていけると思う。

(委員長)

少し学問的な話になるが、書店と Amazon の情報環境は違って、Amazon の情報環境はサーチング、書店はブラウジングである。これらは何が違うかというところ Amazon はピンポイントで探したい本がわかっていないと見つからない。しかし、書店は自分の専門以外のことも目に映って流行などをブラウジングできる。基本的に情報環境はサーチングに強いのだが、ブラウジングに弱いところがある。ローカルな活動や情報を一気にブラウジングできるような環境が、市民ホールで窓口や情報を考えていくうえで重要なコンセプトになると考えている。そういう意味で地域の情報がここで体験できるような場所の作り方が可能性としてあるのではないかと思う。

また、議事録の最後の方に記載があるのは、スペインのバルセロナにあるグエル公園のことだと思うが、しっかりとした芸術作品が見られる・覗ける・体験できる環境が必要であると思う。昨年度の検討委員会で茅野市民館の事例があったと思うが、そこには企画・展示スペースというところがあって、その絵画を間近で見るとためにはチケットの料金を払わないといけませんが、パブリックなホールの階段の上から少しだけ展示物が見えるような構造になっている。近くでは見えないが、定期的に行くと一流の作品が見えるような仕掛けをつくっている。展示に関しても活動

や鑑賞と連携するアイデア出しにチャレンジしていただきたいと思う。ここまで昨年度の検討委員会の皆様からの質問という形になったが、部会のリーダーから意見をいただきたいと思うのだが、いかがだろうか。

(委員)

あるテレビ番組を観ていたときに、調香師の方が出演している番組があった。例えば、展示にうまく使えそうなものとして、香りを嗅げるようなスペースを設けて、展示と組み合わせるといった事例がある。博物館に葦を展示した場合、葦を調香したものをポットに入れて、その匂いを体験してもらおうというようなことをしていた。また、琵琶湖の事例だったかと思うが、鳥のフンの臭いを調香して、その土地にいる鳥の生態を知ってもらうためにその臭いを再現するというようなこともやっていた。そのように五感を刺激するものを展示と組み合わせると面白いと思う。

苫小牧市内で活動されている方々がバラバラではなくて、まとまって芸術や文学に関するイベントをやるのも良いと考えている。

(委員長)

今の話は、例えば総合館長や組織が苫小牧市で様々な活動をしている方々を発掘して情報を集めてきたり、コラボレーションしてイベントを仕掛けたりするようなものだと思う。個別の発表や練習も重要であると思うが、積極的に施設の方から新しい取組を仕掛けていくというのも重要である。昨年度に検討委員会で紹介したアオーレ長岡は、NPOが2つ運営組織としてあり、1つは具体的な企画を実行する組織、もう1つは市民の様々なアイデアの実現化をサポートする組織である。長岡市の中で、様々な組織があったときにAという組織が「こういった活動をしたい。」という相談があったときに「Bの組織と一緒に進むと面白くなるのではないか。」ということをしていくようなNPOがある。市民活動をつくりあげ、バックアップするNPOと、それを実際に施設を使って事業として成立させるNPOを持っている。

(委員)

管理運営計画に関する話は必ずと言っていい程、様々なアイデアが出てくる。具体的な組織をつくっていかないと夢で終わってしまう。市民ホールは建物もそうだが、どのような運営を誰がやるのかを明確にしていかないとどこかで消えてしまう。このあたりは、これから議論が進んでから重要になってくる。

(委員長)

少なくとも具体的な活動や事業を意見として出していただくときに、セットとしてそれを実現・実行するためには誰がどうするのかをそれぞれのワーキンググループ

プで意識していただけると良いと思う。その他にいかがだろうか。

(委員)

前回のワーキンググループ会議でも発言したが、私が演奏活動をする中で思ったのが、丁度良いサイズのホールが欲しいという思いがある。こじんまりとした演奏会をやりたいときに、大きなホールや無料で使えるサロンしかなく、使う側が気軽に使える施設があったら非常に良い。そういったものがあると、若い世代の音楽家が経験を積める場所にもなるので、そういった施設があると良いと思っている。

(委員長)

仕事柄、全国の様々な施設を視察に行くのだが、特に地方の文化施設では、今まで本格的な部屋か会議室だった組み合わせが、様々な特徴を持った諸室にバリエーションを持たせていく傾向が増えていっている。バリエーションを増やすということのもどれをどのくらいのバリエーションにするというのが難しく、あまりにも施設を専有化すると床面積が増えていって稼働率が下がってくる。そこで具体的な知り合いの活動情報などを参照しながら、例えば「このくらいの活動をこの規模でやりたい。」というような話を出していただくとイメージが掴みやすくなる。また、「こじんまりとした」というのが、どのくらい「こじんまりとした」ものでいうのを活動としての意見交換で出していく必要である。

(委員)

現市民会館には大ホール、小ホールがあり、現文化会館には500名を収容できるホールがある。その中で小ホールをどういう位置付けで考えていくべきか、バレエの練習や講演、小さな音楽公演ができたりと様々な提案が考えられる。

(委員長)

バリエーションを考えるときにもととなる具体的な活動がないとバリエーションの選別ができない。

(委員)

観る側からすると食事やコーヒーを飲みながら演奏を観ることができると良い。

(委員)

現市民会館の小ホールではコンサートで、丸テーブルを置いてワインを飲むことができる催しもやっている。

(委員長)

結婚式ができると面白いかもしれない。

(委員)

以前は市民会館でも結婚式が行われていた。

(委員長)

アオーレ長岡でもナカドマで結婚式をやったりしている。その他にいかがだろうか。

(委員)

やる側としては良いものを求めていきたい。

(委員)

良いものが設備なのか、ソフト面なのかで変わってくる。設備でも松竹梅の価格帯があり、良いものだからといっても使う側が使いこなせないと意味がないし、観る側の料金が高くなれば意味がない。苫小牧市として適した金額で様々なことに最低限の範囲で対応できるのが良いものだと思う。

(委員長)

鑑賞ワーキンググループでは、その方向性を議論していただくことが大切である。それが無ければスペックが良いもの良いになってしまうので、どのような活動が中心でこういう価値観のもとでの活動やプログラムが絶対に必要である、このあたりまではいいという話をワーキンググループでしていただきたい。

(委員)

それは全てのワーキンググループに共通することである。どういう路線でいくのかを明確にしておかないといけない。

(委員長)

先日、ぎふメディアコスモスという施設に行った。図書館と市の機能を有している複合施設であり、飲食できる機能としてスターバックスやコンビニがある。重要なポイントとしては、スターバックスだけにするとスターバックスのコーヒーを買える価格帯の人しか来ることができず、600円や700円のお金を払える人だけが滞在してしまう。中高生からすると1杯に700円もするものを毎回買えないので、隣のコンビニで缶コーヒーを買ってフリースペースで飲んでいる。飲食できるとしても誰がどの程度、滞在できるかをイメージすることでスターバックスだけでいいの

か、コンビニだけでいいのか、もっとお洒落なものを機能として入れるのがいいのかという議論になってくる。ぎふメディアコスモスは公共施設なので、スターバックスだけにはならず、もっと幅広い人たちが利用するために、コンビニでペットボトルの飲料や缶コーヒーを売って、それが飲めるような場所にする必要があった。公共施設であることとどのような方向性での価値観にしていくのかをこれからワーキンググループの方々に意識しながら議論していきたい。

それが無ければ、結局は全てお金で決まってしまうので、その点を重視していただきたいと思う。その他にいかがだろうか。

第3回検討委員会が行われるまでに第2回、第3回の各ワーキンググループ会議が開催される。したがって、次回の第3回検討委員会はもっと情報量が増えた形での議論となる。これからの2回の各ワーキンググループ会議でより具体性を上げた議論をしていただきたい。それに向けて必要な資料があれば、適宜事務局で準備していただくようにするので、そういった意識で取り組んでいただきたいと思う。

(3)その他

(4)閉会